



## 遠い「山びこ」

無着成恭と教え子たちの四十年

佐野真一【著】

文藝春秋 1992年

推薦者：教員 佐藤明宏

### 《紹介文》

無着成恭の『山びこ学校』は、東北の山村の子どもたちが貧困と闘う自分たちの生活記録を綴った文集で、昭和26年にベストセラーとなった。本書は、無着成恭と子どもたちの文集発刊までとその後の40年間の人生の軌跡を描いた本である。できれば無着成恭編『山びこ学校』（百合出版）とあわせて読んでもらいたい。

### 《レポート課題》

この作品を読んでみて、

- ① 教師は生徒に対してどうあるべきか
- ② 子どもは教師から何を学ぶべきか
- ③ 教育における教師と子どもの関係

の三点について、作品の中にあげられている事例を論拠にしながら具体的に論じなさい。

※無着成恭編『山びこ学校』（百合出版）図書館中央館に蔵書あります

# 講演集



## これで駄目なら

若い君たちへ - 卒業式講演集

カート・ヴォネガット【著】

円城塔【訳】

飛鳥新社 2016年

推薦者：教員 笠潤平

### 《紹介文》

2007年に亡くなったアメリカの作家カート・ヴォネガットがアメリカの大学の卒業式に招待されて行った卒業記念スピーチをまとめた演説集。今日の社会とその中での人間としての生き方について自由に述べる、かれの何者にも遠慮しない言葉は、皆さんに忘れがたいインパクトを残すと思います。かれは、恐ろしく悲惨な出来事の生き残りの一人になった、洞察力と思いやりのある、真面目で才能あふれる人だったのだと思います。

### 《レポート課題》

本書をはじめから終わりまでよく読み、著者はアメリカの学生たちに何が言いたかったのか、あなた自身は彼のスピーチから何を受け取ったのか、の2点について、よく考えて文章を書いてください。



## ぼくはスピーチをするために来たのではありません

ガブリエル ガルシア=マルケス【著】

木村栄一【訳】

新潮社 2014年

推薦者：教員 笠潤平

### 《紹介文》

大のスピーチ嫌いだったという作家ガブリエル・ガルシア=マルケスのスピーチをまとめた本。私がおっとも好きなのは、書名の元となっている17歳の時のものとアルゼンチンの作家フリオ・コルサタルの思い出を語ったものです。一方、重要と思うのは、1982年ノーベル文学賞受賞式でのスピーチ（「ラテンアメリカの孤独」）と1985年ハバナでのスピーチ（「新しい千年に向けての言葉」）です。これらだけでも読む価値があります。

### 《レポート課題》

本書中から上記の最後の2つの1つを含むスピーチを2つ以上選び、あなた自身はそれらのスピーチから何を受け取ったのか、よく考えて文章を書いてください。